

令和5年11月吉日

公明党 御中

日本若者協議会ジェンダー政策委員会

受験生を狙った痴漢防止に向けた要望書

日本若者協議会では、これまで「日常化」し、「仕方ない」と言われてきた痴漢を本気で問題解決し、来学期に学校に通う時には痴漢なんてない世の中にしたい！そんな思いで、2021年夏頃から、痴漢対策の強化を訴えています。

そうした声を受けて、政府は「痴漢撲滅に向けた政策パッケージ」を2023年3月にまとめ、痴漢を防ぐ取組や加害者の再犯を防ぐ取組などを進めようとしています。

また東京都では、18年ぶりに、2023年1月から、都営地下鉄（都営大江戸線）に新たに女性専用車両が導入されています。

このように、対策が進んでいるのは喜ばしい一方で、長年続いてきただけに、一朝一夕に、痴漢を完全に撲滅させることは難しく、着実に一歩ずつ、前進させる必要があります。

しかし、その間にさらなる被害者が出てしまいます。特に、共通テストでは、当日に受験生を狙った痴漢が多く発生すると言われています。

遅刻を避けるために、泣き寝入りするケースが多く、統計上確認することは難しくなっていますが、SNS上には受験生を狙った痴漢行為を呼びかけるような投稿が多く見られます（共通テストは痴漢チャンスデーなど）。

本来は、こうした卑劣な犯罪者が出ないように、包括的性教育など根本的な対策が必要ですが、目の前の受験生に被害が出ないように、今年度の受験シーズンに向けた対策の強化を求めます。

記

1. 警察官及び駅係員の増員、警戒を強化すること。「痴漢は犯罪です」「警察官が乗車しています」といった電車内・駅構内アナウンスを積極的に流すこと。
2. 女性専用車両の導入増、時間帯を伸ばすこと（始発から9時30分まで）。
3. 防犯カメラを増加すること。
4. 私服で受験して良いことを周知徹底すること。
5. 被害証明書（滞在証明書）の発行、受験機会を確保すること。
6. 第三者に向けた啓発ポスターを作成すること（アクティブ・バイスタンダー）。
7. 警視庁の防犯アプリ「デジポリス」を周知徹底すること。

以上